すぎなみ大人"熟"してる？

Jukusiteru？ TIMES'12 VOL.18

平成２４年２月20日発行

東京都杉並区梅里 1-22-32[社会教育センター内]TEL 3317－6621　FAX 3317－6620

1年間を綴り、語り合おう

2月18日 昼コース

未来を見据えて、総まとめ！

受講生のみなさんが大人塾にはじめて出会ったとき、何を思っただろうか。期待？不安？そして今、何を思うのだろうか。

★学びや思いを言語化する

大人塾は講座の中で、学びとしてのアクションが多い。商店街でだがしや楽校を行うことしかり、ゼミ活動でグループの中で議論することしかり。アクションの後のふりかえりでは、もちろん多様な学びの声が挙がっていたが、今回は、腰を据えて１年間の自分と向き合い、文章を綴る活動が軸だ（右写真）。

松田さん曰く、「文字にして自分の考えを形に記すということは、２つの目的があります。１つは、自分の考えを記し、さらに深めるということ。もう１つは、外へと表現することです。毎年作成している記録集の参考になるかもしれません。」

およそ 30 分間の執筆活動ののち、すぎなみエッセイストたちが綴った文章をみんなで回覧して共有。共有後には車座になって語り合い（下写真）。「この共有→語り合い、という活動が大事」と谷原さん。過去の大人塾でも最後のまとめによく行ったこの活動。互いの考えを受け止め、発信するということが学びにつながるのだ。

↑綴った文章を時計回りにまわして、読み合いっこ。全員の文章を読んだ上で、語り合い。

★学びの成果は語り合いで

語り合いの中では、手芸のように見せられるようなものがなくて、困っていた松井さんが「人と人とをくっつけるようなノリを、何でもいいから見つければいいのだと気付けたことが良かった」という気付きを語られ、吉田さんも「自分のことばかりに目がいっていたけれど、他の人にもいろんな得意技や良さがあることを見つけることができた」という新たな視点を獲得されていた。

さらに、中原さんからは「仕事を辞めた後、ボランティアでもしようと考えていたんですね。けれども他世代の人と関わりたいと思い、大人塾に入った。今はこれからも自分たちで活動を続けていきたいと考えています。」と頼もしい言葉も。

互いに学びあってきたことがそれぞれの地域に帰っても芽吹きそうだ。（坂本）

↓沈黙の中、じっくりと１年間の講座をふりかえり、文章に。

1年間をふりかえって

改めてだがしや楽校とは、「駄菓子屋になろうという講座ではなく、かつてあったような地域社会の人のありかたを、ただノスタルジーでふりかえるのではなく、これからの活動に何か活かしていくことができるかな、と実際にやってみる講座でした。」と松田さんより。

『じゃあ、私にとってのだがしや楽校って何だったの？』

・最近児童館を中心に折り紙を教え、刺激と想像力に感動しています。このような新しい世界との出会いを“だがしや楽校”が開いてくれました。（齋藤昭）　・１人で考えたりすることは限られているが色々な人と出会ったり色々なものと出会ったりすることで広がりが生まれる。（保正）　・何をするかも自分で考え、自分で働きかけていく。ここで松田さんの言う「無理をしない」そして「ゆっくりぼちぼち」だがしや楽校を思い出しながら歩んでいきたい。（大岸）　・個人でできることはごくごく限られていますが、そんな限界こそが人間の救いですよね。適材適所でお互いをいかし合えたら良いな～と思います。（三宮）↗

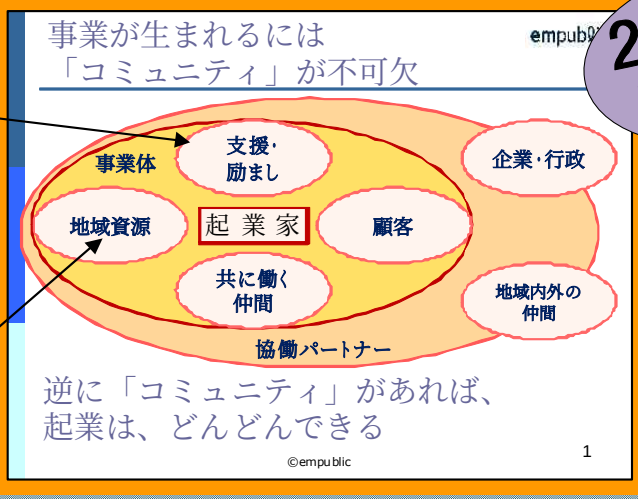
・自分が自分が、ではなく多くの考え、アイディア、優しさをお団子みたいに丸めてひねって吸収することによって自分の中身もコロコロと豊かになるのですね。（山本）　・勉強会とは云うものの私にとって人の優しさと思いやりを実感した会でした。（小林）　・内容がまだ自分の中で消化できていませんが、何かすることも子どもの視点まで下げて、気軽に行えるイベントができたらいいなぁと思います。（大久保）　・ふとした何気ない会話から想像できない創造に繋がっていくことができると思いました。（上野）　高齢者活動支援センターで私達の物を教え教わるカフェが出来れば皆さんも来やすいのではと思います。（深谷）

ソーシャルアクションには色々な種類がある

2月6日
夜コース

やる気のある人を応援してくれる人が大切。参加するのも一つの支援

商店街の場所など



■ソーシャルアクションで大事なこと

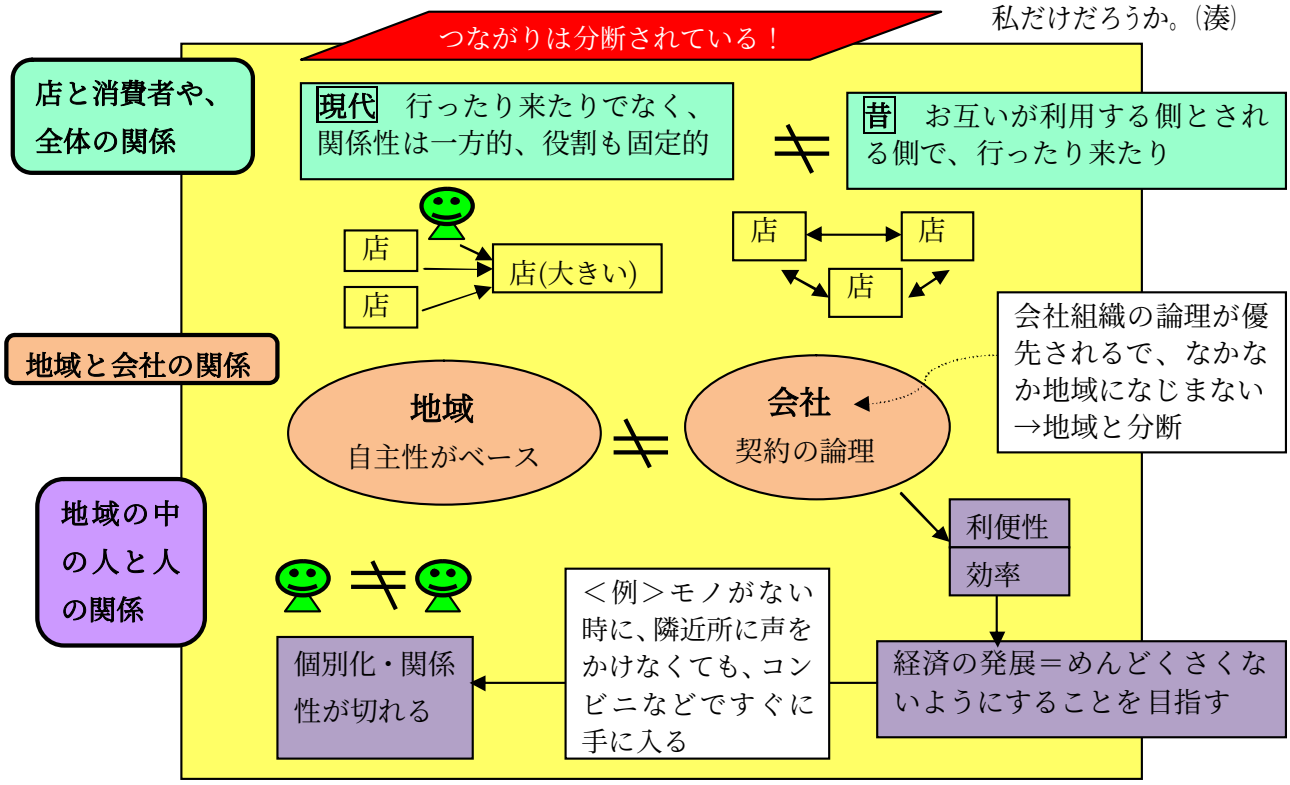
雪が心配された本日の講座、受講生とスタッフの熱い思いで雪雲が逃げたのか、無事に講座が始まった。まず、広石さんから、これから活動や、アクションを起こしていくのに、ヒントとなる話をしてもらった。

地域で活動をしていくのに、やる気のある人がいたらなあ・・とよく話がでる。でもそれだけでうまくいかない。熱意のある人を助けてくれる資源や、回りの人が大事なのだ。一人では新しい活動は生まれない。まずは少し試しづつながら、仲間を増やしていき、皆から応援されて本格活動できれば一番GOOD！大事なのはそういうつながりや支えあう人がいる地域のコミュニティなのである。活動するだけでなく、応援や支援も立派なソーシャルアクションのひとつであることを忘れてはならない。

■ワークショップ経験で目指したものは・・

下図を見てみよう。現代は「つながりが分断されている」時代だ。なんとかつながりを取り戻したい・・そんな声が、特に震災以来聞こえる。そこで、個別化・固定化された役割をやめて、立場を入れ替えてみる。さらに、効率的でないけどやってみる。個別でなく、双方向でみんなでやってみる。そんなことが、この分断された社会システムを変えていく一歩になるに違いない。これが、今回のワークショップを通して、受講生に体感してもらいたかったことである。

以上、広石さんの話をまとめてみた。なかなか自分が活動を作りだす主体になれなくても、（ワークショップでお客さんが来てくれた嬉しさの体験から）活動する人を助けたり、応援することもソーシャルアクション！と聞き、何かができそうな気がしてきたのは私だけだろうか。（湊）



今後のアクションを考えて行くために、大切なことをお話します！

□すぎなみ大人"熟"してる？の発行にあたって□
この新聞は事務局スタッフ松坂・坂本・湊の独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。